

Twitter & YouTube で、動画にして投稿する宣伝用ボイス。

そのため、頭の空白は他のトラックより短く、一秒程度にする。

内容としては『トラック01の内容を短くまとめつつ、このトラック04にしかない情報も入れたもの』。

ありが主人公に自己紹介し、主人公が何やら疲れている様子なのを見抜いて『一緒にのんびりしよう』と誘うシチュエーション。

「【穏やかに、のんびりと自己紹介する。

すでに主人公の事を、かなり気に入っている。

なので、ダウンナーだが、とても友好的な様子で」

補綴（ほてい）　　ありさゝ。

【穏やかに補足する。

『ほてい』という苗字は『補綴』だけでなく『布袋』とも書く。

そのため、自分はそちらではなく、もっと難しい漢字を書く『補綴』であると、説明し

ようとする」

あゝ補綴ってねえ？ めっちゃ難しい字書くのゝ」

〈主人公〉

「んん？ どんな字かな？ 教えて？」

主人公、ありさの苗字に関心を抱きつつも、具体的にどのような字を書くかわからず、キョトンとしている。

ありさ、そんな主人公を可愛く思う。

そこで、主人公の手を自然にとり、その手のひらに、『補綴』と書いていく。

「【主人公の手のひらに『補綴』の文字を書いているイメージで」

こうこう。こんな感じゝ♥」

〈主人公〉

「????」

「【穏やかに、楽しげに。】

ピンと来ていない様子の主人公が可愛らしいので。

『補綴とは、どのような漢字を書くのか』について、結局伝わらなかった事は特に気にしていない。

後でスマホに打ち込んだり、砂に書いたり、生徒手帳を見せたりすればいいだろうと思っ
っているのだ。

というか、いつもはそうしているのだ。

つまるところ、結局『漢字を教える』という口実で、主人公の手に触りたかっただけ」
あは。指で書かれてもわかんないか♥」

〈主人公〉

「……うん！ でも、気になる！」

後でもう一回、スマホとかに打ちこんで教えて？」

ありさ、主人公の言葉にニコニコと頷くと、主人公を正面から、改めて見つめる。

主人公はそれを、不思議そうに見上げている。

ありさよりも、主人公の方が、やや小柄である。

「【穏やかに、寄り添うように。】

あまり深刻そうに聞こえないように、そっと尋ねる」

お姉さんさあ。もしかして人生嫌になっちゃった系？」

〈主人公〉

「えっ……？」

主人公、その言葉に驚いて、言葉を失う。

ありさはそれだけで主人公の心情を見抜き、優しくこう続ける。

「【穏やかに、ニコニコと。】

なんて事もない様子で誘う。

まるで『落ち込んでるみたいだから、放課後一緒に遊ぼうよ』と誘う位の、軽く、でもとても優しい雰囲気です」

じゃー。

うちの島で、ゆっくり休んでけ？」

〈主人公〉

「……！」

「穏やかに、ニコニコと念を押す。

とても嬉しそうに。

まだ主人公の回答はない。

だが主人公は少し申し訳なさそうにしつつ、明らかに『それは魅力的な提案だ』と感じているようなので

ねっ？」

ここでフェードアウトして終了。